

## 2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

## 基準 1 理念・目的

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0101	<b>【新学科・新専攻設置時のみ】</b> 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部および研究科の目的を適切に設定し、公表していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)理念・目的を教職員および学生に周知するとともに、社会に公表しているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>学部、学科の教育研究上の目的および育成すべき科学技術者像は大学 Web ページ、理工学部 Web ページ、学生便覧などに、「あてになる科学技術者の育成」と定められており、その内容は大学の基本理念、使命、教育目的を反映している[1-1] [1-2] [1-3 pp.②]。</li> <li>前項の事項は、Web ページ、学生便覧、新入生全員に配付するクリアファイルなどにより、教職員および学生に周知するとともに、社会に対して公表している[1-1] [1-2] [1-3 pp.②] [1-4]。</li> <li>学部、学科の目的を記載した設置時の認可申請書を大学の Web サイトにて公表している[1-5][1-6]。</li> <li>数理・物理サイエンス学科では、オープンキャンパスの学科紹介、模擬講義、スタートアップセミナーの機会に、大学、学部、学科の理念・目的を提示し、説明をしている[1-7]。</li> </ul>				

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No. 0101	学科を紹介する機会がある毎に大学、学部、学科の理念・目的を提示・説明を行っている[1-7]。

### 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0101	大学の基本理念・使命・教育目的、学部の養成する人材像の周知
今後の改善・向上方策	
理工学部の学生の往来の多い学部事務室前の廊下に、大学の基本理念・使命・教育目的、学部の養成する人材像をわかりやすく示したポスターなどを掲示し、広く周知を図る。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

### Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0101 「現状説明」には、「学部、学科の教育研究上の目的および育成すべき科学技術者像は大学 Web ページ、理工学部 Web ページ、学生便覧などに、「あてになる科学技術者の育成」と定められており、その内容は大学の基本理念、使命、教育目的を反映している[1-1] [1-2] [1-3 pp.②]」と記載がある。しかし、「あてになる科学技術者の育成」という文言は学部ではなく数理・物理サイエンス学科にしか見当たらない。この自己点検は学部単位で行うものであるから、学部 DP の方針概要に記載されている「理工学に関する知識と技能を修得した有能な科学技術者」であると思われるので確認が必要である。	
0101 学部、学科の教育研究上の目的および育成すべき科学技術者像は、様々な媒体や機会を用いて公表・周知されている[1-1] [1-2] [1-3 pp.②] [1-4] [1-5][1-6] [1-7]。	
0101 「今後の改善・向上方策」に記載された「理工学部の学生の往来の多い学部事務室前の廊下に、大学の基本理念・使命・教育目的、学部の養成する人材像をわかりやすく示したポスターなどを掲示し、広く周知を図る。」について、「現状説明」に記載されていない。このことについてヒアリングで指摘したところ、今後は対応する方針であることを確認できた。	
長所・特色	
0101 学部、学科の教育研究上の目的および育成すべき科学技術者像は、様々な媒体や機会を用いて公表・周知されている[1-1] [1-2] [1-3 pp.②] [1-4] [1-5][1-6] [1-7]。	
留意点 *各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	
0101 「現状説明」には、「学部、学科の教育研究上の目的および育成すべき科学技術者像は大学 Web ページ、理工学部 Web ページ、学生便覧などに、「あてになる科学技術者の育成」と定められており、その内容は大学の基本理念、使命、教育目的を反映している[1-1] [1-2] [1-3 pp.②]」と記載がある。しかし、「あてになる科学技術者の育成」という文言は学部ではなく数理・物理サイエンス学科にしか見当たらない。この自己点検は学部単位で行うものであるから、学部 DP の方針概要に記載されている「理工学に関する知識と技能を修得した有能な科学技術者」であると思われるので事前質問にて確認を依頼した。その結果、学生便覧の学部概要に記載の「あてになる科学技術者を育成」することが理工学部の教育研究上の目的であり、次回 DP 改訂時などに統一を図る方針を確認できた。 【B】	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする  
△：現部署で保管

## 2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

## 基準 2 内部質保証

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	A
評価の視点	(3) 大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4) 学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5) 行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部質保証のための全学的な方針に基づき、大学全体としての自己点検・評価、理工学部における自己点検・評価、および個々の教職員による自己点検・評価を行っている[2-1][2-2][2-3]。</li> <li>非常勤講師との懇談会、各企業との就職面談やOBからの意見の聴取に加え、学部や学科全体の意見交換会を開催し、他の学科や学生の意見を聴取することで、内部質保証システムを構築するとともに、教育改善システムに反映している[2-4][2-5][2-6]。</li> <li>数理・物理サイエンス学科では、少人数担任制を導入し、学生個々の教育と学習成果を聞き取り、個別指導できる体制を整えており、適宜面談を行っている[2-7]。面談結果は学修ポートフォリオを活用して報告し、教員が情報を共有できるようにしている。また、毎回の学科会議の場において問題点があれば報告、対策を議論している[2-8][2-9]。しかしながら、所属教員個々の意識が必ずしも同じではないところが課題である。</li> </ul>			

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0201	少数担任制を採用し、学科所属学生全員の個別指導を行っている (AS) [2-7]。
項目 No. 0201	毎月の学科会議の場で学生の動向の情報共有を行い、確認・議論を行っている (AS) [2-8][2-9]。

## 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	教員によって学生への対応・指導の程度の差がある
今後の改善・向上方策	
学修ポートフォリオへの積極的な面談記録などの入力を促す。学科会議での情報共有を強化する。行うべき最低限度の対応・指導を明記した指針を準備する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

## Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする  
△：現部署で保管

## 2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 4 教育・学習 (4a)

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0401	達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程および教育・学習の方法を明確にしているか。 (2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。			
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業認定・学位授与の方針 (DP) には、指導方針や育成する人物像が明記されており、教育課程の編成・実施方針 (CP) には、教育内容、方法、評価方法などが明記されている[1-2]。</li> <li>前項の事項は、学部創設時に、各学科会議等にて検討し、原案を作成後、教授会において学部内整合性等を更に検討した上で承認された。2022 年度、全学的に各学部 DP、CP の見直しを行った際には、理工学部は、完成年次を迎える 2026 年度末まで、文部科学省に提出したもののからの変更ができないため、2027 年度に、大学全体の方針に沿った形への見直しを行うことになっている[4a-1]。</li> <li>DP、CP については、大学 Web ページや学生便覧に公開している[1-2][1-3 pp. ①-⑥]。</li> </ul>			

評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	自己評価	A
評価の視点	学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 ※ 具体的な例			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。</li> <li>・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。</li> <li>・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。</li> <li>・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。</li> </ul>
<b>現状説明</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業科目の位置づけや到達目標を設定し、シラバスにて学生に開示している[4a-2]。</li> <li>・学習の順次性を考慮して受講するために、学生向けにカリキュラムツリーを作成して示している[4a-3]。</li> <li>・各授業における授業外の学習時間を確保するため、90分の授業時間と別に、授業前後に取り組むべき学習内容をシラバスで示している[4a-2]。</li> <li>・科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともに、カリキュラムツリーや教育課程系統図によって教育課程の体系やコースの意味を明確にしている[4a-4][4a-3]。</li> <li>・教育課程系統図にあるように、全学共通教育科目、理工系教育圏科目、各学科専門教育科目を体系的に編成し、専門基礎科目を低学年に配置することで、高大接続に配慮している[1-3 pp. 24, 34, 43]。</li> </ul>	

評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果および教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。</p> <p>(2)ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。</p> <p>(3)授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。</p> <p>※ 具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。</li> <li>・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。</li> <li>・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか）。</li> <li>・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。</li> </ul>			
<b>現状説明</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式に加え、学生が主体的に行う演習、実験、実習、製図等を適切に組み合わせた授業を学部全体において実施している[1-3 pp. 24, 34, 43]</li> <li>・カリキュラムの適切性は各学科会議において検討され、教育課程の変更が必要な場合は、理工学部教務委員会で審議されている[4a-5]。</li> <li>・学科開講の講義において、Google Classroomを利用して、講義の補助としてオンデマンド教材を提供する展開をしている。必要に応じてこうしたオンラインプラットフォームで、質問などの学生とのコミュニケーションに対応している。また、一部の講義では、教員が作成した大規模言語モデル、LLM (Large Language Models)を学習（復習）に活用し、学生からの質問に自動で回答するシステムを導入している[4a-6]。</li> <li>・授業内容や設備、受講者数を勘案して開講クラス数を決定している。</li> <li>・学生からの声を聞いたり、理解度テストを適宜実施して理解度・到達度を確認している。またGoogle Classroomの「コメント」機能等のICTも活用して、学生からのフィードバックを得られるようにしている。</li> <li>・学科専門科目を中心に、学科として学習支援を週に1回程度、実施している（AU）[4a-7]。</li> </ul>				

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0403	教員が作成した大規模言語モデル、LLM を学習（復習）に活用し、学生からの質問に自動で回答するシステムを導入している[4a-6]。

### 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0401	学生の多様性を考慮した教育方針
今後の改善・向上方策	
課程修了時に求められる学習成果の達成を目指し、教育方法の工夫を継続しているが、授業運営に課題を抱えている。今後は、学科会議を通じて各教員の教育方法を共有し、学生の出席状況や成績情報の共有を図り、早期対応を強化する。また、評価方法の見直しも検討し、多様な指導方法を活用しながら、学習成果の確実な達成を図る。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

### Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0401	卒業認定・学位授与の方針（DP）には、指導方針や育成する人物像が明記され、教育課程の編成・実施方針 CP には、教育内容、方法、評価方法などが明記されており、いずれも、大学 Web ページや学生便覧において公開することによって、達成すべき学習成果や教育・学習の基本的なあり方は学内外に対して明確に示されている[1-2][1-3 pp. ①-⑥]。DP・CP は、理工学部 completion 年次である 2026 年度末まで変更できないため、2027 年度において見直しを行い、今後適切化していく必要がある[4a-1]。 課程修了時に求められる学習成果の達成を目指し、教育方法の工夫を継続しているが、授業運営に課題が生じている。今後は、教員間の情報交換による早期対応に加えて、評価方法の見直しや、多様な指導方法の検討が必要である。
0402	シラバスにおいて各授業科目の位置づけ、達成目標、学習内容を開示し、カリキュラムツリー、科目ナンバリングによって各科目の順次性、関連性、難易度を明示することにより、学習成果を達成するための教育課程を体系的に編成している[1-3 pp. 24, 34, 43] [4a-2] [4a-3] [4a-4]。
0403	Google Classroom を利用したオンデマンド教材の提供や学生からのフィードバック収集など ICT を活用した学習支援が展開されている。また、一部の講義では教員が作成した大規模言語モデル（LLM）による学生からの質問への自動回答システムを導入し、授業内容の理解を促す取り組みが実践されている[4a-6]。学部への質問の回答及び追加資料により、この取り組みは、学内 FD 講演会のみならず他学部での FD・SD 講演会でも報告され、幅広く共有されていることが確認された [P4a-1, P4a-2]。「スタディールーム」を開設し、学科専門科目を中心とした学習支援を行っている[4a-7]。
長所・特色	
0403	Google Classroom を利用したオンデマンド教材の提供や学生からのフィードバック収集など ICT を活用した学習支援が展開されている。また、一部の講義では教員が作成した大規模言語モデル（LLM）による学生からの質問への自動回答システムを導入し、授業内容の理解を促す取り組みが実践されている[4a-6]。学部への質問の回答及び追加資料により、この取り組みは、学内 FD 講演会のみならず他学部での FD・SD 講演会でも報告され、幅広く共有されていることが確認された[P4a-1, P4a-2]。「スタディールーム」を開設し、学科専門科目を中心とした学習支援を行っている[4a-7]。
留意点 *各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	
0401	教員間の情報交換による早期対応に加えて、評価方法の見直しや、多様な指導方法の検討が必要である。 【B】

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P4a-1	FD 講演会 2022 資料	○
P4a-2	2024 年人文学部春学期 FSDS 講演会案内	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 4 教育・学習 (4b)

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	生成系 AI の利用に関する今後の課題の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
ChatGPT などの生成系 AI は、学生の大学教育の一助になる一方で、当人の思考に基づく知識の習得や利用、醸成を阻害する可能性がある。こうした点を「情報スキル入門」や、「スタートアップセミナー」など 1 年次春学期開講の必修科目において解説し、その利用法などについての講義を進めている[4b-1]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	AI 数理データサイエンス教育プログラムへの参加
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023 年度に本学 AI 数理データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）が文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」に認定され、2024 年度には同プログラム（応用基礎レベル）も追って認定された [4b-2] [4b-3]。</li> <li>・学生には、1 年次春学期指定科目の「情報スキル入門」や、「微分積分学 I」の授業内で数理・データサイエンス・AI 教育の重要性を広く周知しており、2024 年度時点において、全学からリテラシーレベルは 1032 名、応用基礎レベルは 546 名が登録している [4b-4] [4b-5]。理工学部は学部学生の 25%以上が、両レベルにおいて登録しており、全学で登録率が一番高いが、継続して勧奨を行い、登録率の向上を図っている。</li> </ul>	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	協働型ロボットの拡充とその教育システムの構築(AR)
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学長ヒアリング予算、学部長裁量経費、学科予算などを組み合わせ、2024 年度時点において、8 台調達できている。2025 年度春学期の「プロジェクト演習 B」において、このアームロボットを使用し、ピッキング操作と搬送の実習などを行う予定である。ロボットに各種センサ(6 軸力覚センサ、カメラ、ハンド等)を取り付けて AI 技術を組み込むことにより、より高度なロボットシステムの実験・演習内容を構築し、目標である 10 台を目指し、台数拡充も引き続き進めていく[4b-6]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	実験・実習におけるテキスト及び講義内容の共有化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
各学科の実験授業においては、複数の教員が各テーマを担当しているが、Google Classroom などを用いて、学生へテキストなどの教材提示を行うことで、教員間でも互いのテキストや、各テーマの進め方を参照することができている[4b-7]。	

## II. 自己点検・評価

### 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0404	成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。(2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。</p> <p>(2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。</p> <p>(3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。</p> <p>(4)学位授与における実施手続および体制が明確であるか。</p> <p>(5)学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。</p>			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに明記した「達成目標」「成績評価方法」に基づき、成績評価を実施している。また、シラバスについては、第三者点検による客観的な観点からのチェックも毎年行っている[4a-2][4b-8]。</li> <li>・編入学の学生、転学部・転学科学生については、既取得科目について単位数や科目の内容を確認して単位の認定を行っている。また、語学科目の一部において、第三者試験にて能力を有することが確認された学生に対してや、オハイオ大学長期研修プログラム参加者についても、規定に基づき単位認定を行っている[4b-9][1-3 pp.76][4b-10]。</li> <li>・複数担当者による授業科目においては、担当者全員で成績を共有し、その客観性、厳格性を保つよう努めている。</li> <li>・卒業研究の成果内容を複数の教員で確認することにより、卒業研究の単位認定を公正、公平に実施している[4b-11]。</li> <li>・各学科で統一の審査基準は設けておらず、ルーブリックなどで規定することが検討されている。</li> <li>・学位授与にあたっては、教務支援課より提示された事前資料を基に、学科内で対象学生が卒業要件を満たしていることを確認し、教授会にて確認・承認を行っている(ER)(EU)[4b-12]。</li> </ul>				

評価項目	0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>(2)学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。</p> <p>(3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト (GPS-Academic)</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等）</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> <p>※ 具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。</li> <li>・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。</li> <li>・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。</li> </ul>			

	・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。
<b>現状説明</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生の基礎学力の把握、習熟度別授業のクラス分けに活用するため、入学時にフレッシュマンテスト（数学、英語、物理（2024年度入学生まで））を実施している。また、数学、物理については毎年の結果の変化を分析することで、授業進行や次年度の入試に活かしている[4b-13]。</li> <li>・学びに関する調査を実施し、学生の学修行動や学生生活の実態をつかむことで、学修環境の改善に役立てている[4b-14]。</li> <li>・1年次および3年次にGPS-Academicを実施し、在学生の汎用的能力の可視化に役立てている[4b-14]。</li> <li>・シラバスの第三者点検を実施し、シラバスの活用と教育の質保証に役立てている[4b-14]。</li> <li>・年2回、教務部により、成績不振学生の調査が行われ、保護者宛の学修状況通知とともに学科へ共有される。学科はこれを受け、学修状況等を学生本人から確認して、学生支援に役立てている[4b-14]。</li> <li>・授与している学位に必要な専門分野を学修できるように授業科目を体系的に構成している。また、これを俯瞰して確認できるようにカリキュラムツリーを作成している[4a-3]。</li> <li>・各科目においては、学位に必要な体系を構成していることを確認するため、授業科目の位置づけや到達目標をシラバスに明示している[4a-2]。</li> <li>・学生の学習時間を考慮して学位授与に必要な授業内容を学習させるため、シラバスに授業内容と共に事前・事後に学習すべき内容を記載している[4a-2]。</li> </ul>	

<b>評価項目</b>	0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	<b>自己評価</b>	A
<b>評価の視点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。</li> <li>(2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。</li> <li>(3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。</li> <li>(4)自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。</li> </ul>			
<b>現状説明</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある授業づくりへの取り組みとして、学生による授業評価を実施しており、学生からの回答中の指摘をもとに授業内容の改善・見直しの必要性を確認し、必要に応じて変更・改善を行っている[4b-15]。</li> <li>・4年次学生の進路状況について、研究室毎に都度状況を学生から聴取すると共に、月に1回程度の頻度で調査票を用いて就職活動の状況や就職先を把握している[4b-16]。</li> <li>・3年次学生については、春学期早々にGoogleフォームを用いたアンケート形式により、進学を希望するか就職を希望するかについて調査を実施している[4b-17]。</li> <li>・各教員が毎年度初めに、「教員活動重点目標・自己評価シート」を提出し、当該年度重点目標を設定し、これを学部長、学長が点検する。また、年度終わりに同シートに自己評価を記して提出し、これを学部長、学長が点検している[4b-18] [2-3]。</li> <li>・教育活動顕彰制度受賞者によるFD講演会を毎年開催し、先駆性や独自性がある教育方法の取り組みなどの紹介を行っている[4b-19]。</li> </ul>				

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

<b>長所・特色 《箇条書き》</b>	
項目 No. 0406	教育活動顕彰制度受賞者によるFD講演会を毎年開催し、先駆性や独自性がある教育方法の取り組みなどの紹介[4b-19]。

### 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0404	卒業研究における統一審査基準の設定
今後の改善・向上方策	
卒業研究をより公平、公正に審査するため、学科毎にルーブリックなどの審査基準を規定する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

### Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
<p>0404 シラバスに沿った成績評価や、編入学生、転学部・転学科生および長期研修プログラム参加者の単位認定など、大学の規定に基づく成績評価、単位認定および学位授与が行われている[4a-2] [4b-9][1-3 pp.76] [4b-10]。卒業研究発表会に複数の教員が参加することにより、卒業研究の単位認定を公正・公平に実施している。卒業研究においては、より公平、公正な審査が必要とされているが、各学科で統一の審査基準は設けておらず、ルーブリックなどで規定することが検討されている。検討を記した議事録等の提示が好ましいことを指摘したところ、追加資料が提出された [P4b-1]。</p> <p>0405 フレッシュマンテスト、学びに関する調査、GPS-Academic 等を実施・解析することにより、学生の学習成果を把握・評価している[4b-13] [4b-14]。フレッシュマンテストの数学・物理の結果分析において、根拠資料が数学の結果のみであることを質問したところ、物理の結果が追加資料として提出された [P4b-2]。</p> <p>0406 3年次学生の春学期に進学または就職の希望調査を行うとともに、4年次学生の就職活動状況を定期的に聴取することにより、学生の進路を把握している[4b-16] [4b-17]。教育活動顕彰制度受賞者によるFD講演会を開催し、教育方法の向上に努めている[4b-19]。前回の課題である生成系 AI の利用、AI 数理データサイエンス教育プログラムの認定および学生参加、協働型ロボット導入による教育システム構築等により、教育内容の向上を展開している [4b-1] [4b-2] [4b-3] [4b-4] [4b-5]。なお、AI 数理データサイエンス教育プログラムにおける理工学部生の登録率が、根拠資料におけるどの数値に該当するか不明確であったので質問したところ、ヒアリングにおいて説明を受けて納得した。また、同根拠資料における数値の誤記が判明したので、修正することになった [4b-4] [4b-5]。</p>
長所・特色
<p>0404 卒業研究発表会に複数の教員が参加することにより、卒業研究の単位認定を公正・公平に実施している[4b-11]。</p> <p>0406 3年次学生の春学期に進学または就職の希望調査を行うとともに、4年次学生の就職活動状況を定期的に聴取することにより、学生の進路を把握している[4b-16] [4b-17]。教育活動顕彰制度受賞者によるFD講演会を開催し、教育方法の向上に努めている[4b-19]。前回の課題である生成系 AI の利用、AI 数理データサイエンス教育プログラムの認定および学生参加、協働型ロボット導入による教育システム構築等により、教育内容の向上を展開している [4b-1] [4b-2] [4b-3] [4b-4] [4b-5]。</p>

留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項
0404	卒業研究をより公平、公正に審査するため、審査基準の検討を必要とする。【B】

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
P4b-1	2022 年度第 11 回宇宙航空理工学科教室会議記録	○
P4b-2	フレッシュマンテスト（物理）工学部理工学部教授会報告資料	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
 ●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする  
 △：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 5 学生の受け入れ

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	入学者総数における推薦入学者の割合の調整
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部大学第一高校教員との意見交換会を開催し、入学までに修得してほしい単元や心構えなどについて意見交換を行っている[5-1]。</li> <li>・ AU に関しては、高校生、保護者や高校の進路指導の先生方に、宇宙航空関連企業の求人需要が非常に高いことや就職先は宇宙航空に限らず広範囲であること、大学での学びも広範囲であることを周知し、選んでもらえるようにすることが必要である。</li> <li>・ 学科の魅力を伝えるために独自のパンフレットを作成したり、広報イベントに出展したりしている[5-2][5-3][5-4]。</li> </ul>	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	推薦入学者の学力向上
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦入学者が、留年、退学に繋がらないように、入学前ガイダンスにおいて、高校教科の復習の重要性を強調するとともに、入学前教育として、業者による高校教科の復習講座の受講を勧めたり、数学と物理の演習問題を課し、その解説を実施したりしている[5-5][5-6][5-7]。対面での講習も実施している[5-8]。ただし、業者による高校教科の復習講座は受講した学生は少数である。</li> <li>・ 入学後のサポートとして、学科専門科目を中心に、学科として学習支援を週に1回程度、実施している（AU）[4a-7]。</li> <li>・ 推薦入学者の留年、退学状況を高校に説明し、推薦する側の責任として、入学前の高校在学中における基礎学力の向上をお願いした[5-1]。</li> </ul>	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	就職先などの状況を適切に広報できていない
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理工学部としてはまだ卒業生を輩出していない。</li> <li>・ ER、EU においては、オープンキャンパスの学科説明において、これまでの就職先を説明したり、大学および学科のパンフレットや大学の Web ページに、これまでの就職実績を記載して示したりしている[5-9]。また、在学生向けには、学科共通室、学科教員から就活学生へ適宜情報を開示している。</li> </ul>	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0501	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。 (2)学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 (3)すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のポリシーに基づき、学部・学科ごとのアドミッションポリシー（AP）を設定している[1-2]。</li> <li>入学前の学力水準・能力については、「高等学校段階までに身につけてほしいこと」としてAPに明示している[5-10]。</li> <li>APは、大学の公式Webページにて公表している[1-2]。また、オープンキャンパスの学科紹介、模擬講義において説明している[5-11]。</li> </ul>				

評価項目	0502	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	自己評価	B
評価の視点	学士課程全体および各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生募集および入学者選抜制度については、入試要項を定め、理工学部入学者選抜委員会、全学の入試・選抜委員会で、透明かつ公正な選抜が実施されている[5-12][5-13]。</li> <li>入学者数や在籍学生数は、教授会にて各種データを確認して状況を把握している[5-14]。</li> <li>入試方針への学科の意向の反映については改善の余地がある[5-13]。</li> <li>入学者数および在籍学生数において定員を充足していない学科では、学科の魅力を伝えるために独自のパンフレットを作成したり、広報イベントに積極的に出展したりしている[5-3][5-4]。</li> </ul>				

評価項目	0503	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の入学・志願状況について、教授会や教室会議などで情報共有している[2-8][2-9]。</li> <li>入学生の基礎学力の把握、習熟度別授業のクラス分けに活用するため、入学時にフレッシュマンテスト（数学、英語、物理（2024年度入学生まで））を実施している。また、数学、物理については毎年の結果の経年変化を分析することで、授業進行や次年度の入試に活かしている[4b-13]。</li> <li>点検・改善に資する個別情報・IRデータの学科への提供方法に関しては改善の余地がある。</li> <li>23年6月に開催されたFD・SD研究会における河合塾の入学生分析の報告を教室会議で共有し、議論した[5-15]。</li> <li>学科を志望する高校生を増加させるため、学科の幅広い学びや魅力を伝えるべきであり、独自のパンフレットを作成したり、広報イベントに積極的に出展したりしている[5-2][5-3][5-4]。</li> </ul>				

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0503	学科の魅力を伝えるために独自のパンフレットを作成したり、広報イベントに積極的に出展したりしている[5-2][5-3][5-4]。
項目 No. 0503	フレッシュマンテストの結果を分析し、教授会で情報共有・議論を行っている[4b-13]。

## 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0502	学部内での定員とその充足
今後の改善・向上方策	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 定員超過や定員未充足の改善策として、工学部とも協力し、ひとつの試験で複数学科志望できるような入試システムを構築すべきである。</li><li>・ 上手な広報活動により実志願者数を増やすことが必要である。</li></ul>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

## Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
0501 大学の基本方針に基づき、学部・学科ごとのアドミッションポリシー（AP）が策定・公表されており、教育理念との整合性を保ちながら、受験生に対する情報提供が多面的に行われている。
0502 学生募集および入学者選抜は、入試要項に基づき、学部および全学の委員会を通じて運用されており、制度的な体制が整備されている。一方で、一部の学科では入学者定員が2年連続で充足しておらず、教育内容や組織構成を含めた今後の対応が課題とされる。この点についてヒアリングを行った結果、追加資料が提出され、学部としての対応方針が確認された [P5-1、P5-2]。
0503 入学者の基礎学力を把握するためにフレッシュマンテストが実施されており、経年変化の分析結果は授業編成や入試設計へのフィードバックに活用されている。また、FD・SD 活動を通じて外部データの活用も進められている。フレッシュマンテストの結果分析については、当初は数学のみの結果が示されていたが、ヒアリング時の質問により物理の結果も追加資料として提出された [P4b-2]。さらに、学生の入学・志願状況を確認するための資料開示を求めたところ、こちらも追加資料が提出され、教授会や教室会議などで情報共有が行われていることが確認された [5-13]。
0504 推薦入学者に対しては、入学前教育の機会が多様な形で提供されており、入学後の学習支援体制も整備されている。加えて、高等学校との情報共有や連携を通じて、入学者の基礎学力向上に向けた取り組みも行われている。また、独自パンフレットの作成や広報イベントへの参加など、学科単位での積極的な広報活動が展開されている。就職実績に関する情報提供についても、受験生および在学生に対して適切な周知が図られており、学生募集に関連する情報公開と支援体制は概ね整っていると評価できる。なお、ヒアリング時には入学前教育の受講者数や学習支援体制の具体的な状況について質問を行い、追加資料の提出を受けて現状の把握が可能となった [P5-3]。また、数理・物理サイエンス学科においては、現時点で独自パンフレットが作成されていないことが確認されたが、今後の作成を検討しているとの回答が得られた。

長所・特色	
0501	大学の基本方針に則り、学部・学科ごとにアドミッションポリシー（AP）を策定しており、教育理念との整合性が図られている。[1-2]
0501	入学前に求める学力水準や資質を具体的に明示しており、受験生に対する情報提供が適切になされている。[5-10]
0501	策定した AP を大学公式ウェブサイトにて公表していることに加え、オープンキャンパスにおける学科紹介や模擬講義を通じて受験生・保護者等への説明を行っている。[5-11]
0502	学生募集および入学選抜は、入試要項に基づき、理工学部入学選抜委員会および全学の入試・選抜委員会において実施されており、制度としての運用体制が整備されている。[5-12]
0502	入学数・在籍学生数等のデータが教授会にて共有・確認されており、適切な現状把握と運営判断がなされている。[5-14]
0502	定員未充足の学科においては、独自パンフレットの作成や広報イベントへの出展など、学科単位での広報活動が行われている。[5-3][5-4]
0503	学生の入学状況や志願動向に関する情報は、教授会や教室会議において教員間で共有されている。[2-8][2-9]
0503	入学時にフレッシュマンテスト（数学・英語・物理）を実施し、基礎学力の把握および習熟度別授業の編成に活用している。また、数学・物理に関しては経年変化の分析を通じて授業運営および入試設計に反映している。[4b-13]
0503	外部機関による入学生分析結果（例：河合塾の報告）を FD・SD 活動の一環として受け入れ、教室会議において共有・議論している。[5-15]
0503	学科の学びの内容や魅力を伝えることを目的に、独自のパンフレットを作成し、広報イベントへの参加などを通じて高校生へのアプローチを行っている。[5-2][5-3][5-4]
0504	推薦入学者の学力状況に関する課題を踏まえ、高等学校との意見交換会を実施し、入学前に修得すべき内容や心構えについて情報共有を行っている。[5-1]
0504	推薦入学者を対象に、入学前ガイダンスにおいて高校教科の復習の重要性を周知するとともに、復習講座の受講推奨、数学・物理の演習課題とその解説、対面講習の実施など、複数の手段を用いた入学前教育を行っている。[5-5][5-6][5-7][5-8]
0504	入学後においても、学科専門科目を中心とした学習支援を、週1回程度の頻度で実施している。[4a-7]
0504	推薦入学者の留年・退学の状況について高等学校と共有し、入学前に必要な基礎学力の向上について協力を依頼するなど、推薦元との連携を図っている。[5-1]
0504	ER、EU においては、オープンキャンパスでの学科説明時に過去の就職先について説明を行い、また、大学・学科のパンフレットや Web ページに就職実績を掲載するなど、進路情報の提供を行っている。[5-9]
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
P5-1	入学者・志願者推移	○
P5-2	宇宙航空を取り巻く社会状況資料	○
P5-3	入学前準備教育 数理・物理サイエンス学科	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 6 教員・教員組織

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

□ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例 ・教員が担う責任の明確性。 ・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。 ・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 (2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 (3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 (4)授業において指導補助者に補助または授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。			
現状説明	・人事審議会を通じて、適切な専任教員数の確保、教育理念・目的を実現できる教員組織の編成に努めている。 ・教員が担う責任の明確性、法令で必要とされる数の充足、科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成、各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理に関しては文科省への設置申請で認められた通りに行っている[1-6] [6-1]。			

- ・クロスアポイントを利用する教員がいる場合、学科会議などで業務範囲の紹介と学科への影響を議論・把握している[6-2]。
- ・「教育職員の職務と勤務態様」において、教員の職務内容が明確化されている[6-3]。
- ・数理・物理サイエンス学科のほとんどの教員が理工系教育圏の講義科目の非常勤講師の手配を行なっているが、その負担が重い[6-4]。

評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 (2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の昇任に関しては適切な時期に行っている[6-5]。</li> <li>・教員人事関連規程が整備され、昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化により明確にし、適切な手続きによる運用が行われている [6-6]。</li> <li>・教員の募集にあたっては、定められた定員を充足するように退職者が見込まれるタイミングに実施するようにしている。この際には、専門分野や年齢、性別の偏りを考慮して採用するようにしている。</li> </ul>				

評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の教育・研究・社会活動については教員活動重点目標・自己評価シート等で自己評価を実施している[6-7]。</li> <li>・教育活動顕彰制度受賞者による講演会を工学部・理工学部FD講演会として行い、教育活動の改善等に役立てている[4b-19]。</li> <li>・研究活動のアウトリーチを積極的に行い、特に本大学からのプレスリリース、他大学との共同プレスリリースを積極的に実施し、一部のものは全国、地方新聞等の取材、掲載に至っている。学科Webページにおいても受賞に至る研究活動の掲載をしている[6-8]。</li> <li>・魅力ある授業づくりへの取り組みとして実施されている、学生からの授業評価への自由記述を参考にして授業改善を行っている[4b-15]。</li> <li>・FD/SD講演会への参加を通して、授業内容や方法、学生との接し方などの知識を学ぶとともに、これらの必要性を確認する機会としている[6-9]。</li> <li>・社会貢献活動として、愛知県、名古屋市を中心とした宇宙航空分野の人材育成に関する業務委託を、学科として受託している[6-10]。</li> <li>・大学院生を指導補助TAにあたらせる場合は、事前に授業内容を説明したり、実施内容を予習させたりして授業の進行がスムーズかつ効果的に実施できるようにしている。</li> <li>・学部交流会、非常勤講師との教育懇談会を通して、教育研究活動等の改善・向上、活性化につなげている[2-4][2-5]。</li> </ul>				

評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組み			

	みへとつなげているか。
現状説明	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会において昇格に関する評価基準ポイントの見直しを行っている[6-11]。</li> <li>・数年後に予想される数理系教員の不足に対して問題点を指摘して上申を行っている[6-12]。</li> <li>・教員の教育・研究・社会活動については教員活動重点目標・自己評価シート等で自己評価を実施している[2-3]。</li> </ul>	

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0602	教員人事関連規程が整備され、昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化により明確にし、適切な手続きによる運用が行われている[6-6]。
項目 No. 0603	教育活動顕彰制度受賞者による講演会を工学部・理工学部 FD 講演会として行い、教育活動の改善等に役立っている[4b-19]。
項目 No. 0603	研究活動のアウトリーチを積極的に行い、特に本大学からのプレスリリース、他大学との共同プレスリリースを積極的に実施し、一部のものは全国、地方新聞等の取材、掲載に至っている[6-8]。
項目 No. 0603	学部交流会、非常勤講師との教育懇談会を通して、教育研究活動等の改善・向上、活性化につながっている[2-4][2-5]。

## 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0603	プレスリリースや新聞などによる教育研究活動のアウトリーチの評価
今後の改善・向上方策	
<p>プレスリリースや新聞などによる教育研究活動のアウトリーチは、教員本人のみならず大学の知名度向上につながる可能性が極めて高い。研究費の追加補助等のインセンティブを規定するなどしてより積極的なアウトリーチにつながる術を考える必要がある。</p>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

## Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする  
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 7 学生支援

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	配慮を要する学生に対する対応
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数担任制をとることで、より密に迅速に対応可能な体制としている[2-7]。学科主任、各学年主任が学生全体を見て、教員間での連絡を密に行えるようにしている。</li> <li>・学生から配慮申請が提出された場合、学生サポートセンター、学科主任、指導教授、事務長で打合せを行い、配慮の範囲と学科における対応を協議している。科目担当者には学生サポートセンターから配慮の内容について通知され、学科所属教員には、学科主任より必要に応じて情報共有を行うことで、組織でサポートを行っている。</li> </ul>	

<input type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	学習相談室での相談実績を分析して改善につなげる。(AU)
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学習相談室であった相談実績を分析し、共有して学生指導を実施している。また、学習相談室の利用頻度向上策としては、授業などを通じて、習熟度が低い学生への呼びかけをより積極的に行っている。	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(4) [修学支援 (学習面)] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか (補習教育、補充教育、学習に関わる相談等)</p> <p>(5) [修学支援 (学習面)] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。</p> <p>(6) [修学支援 (学習面)] 学習の継続に困難を抱える学生 (留年者、退学希望者等) に対し、その実態に応じて対応しているか。</p> <p>(8) [修学支援 (学習面)] ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配</p>			

	<p>慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っているか。</p> <p>(10) [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。</p> <p>(11) [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。とりわけICTを利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。</p> <p>(12) [進路支援] 各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程など）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。</p> <p>(13) [その他支援] ボランティア活動・部活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。</p> <p>(14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。</p>
--	---

<b>現状説明</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科の専門科目を中心にサポートする学習支援室を、週に1回程度開催している[4a-7]。</li> <li>・ 入学時から3年生の研究室仮配属まで、少数担当持ち上がり担任制により、個々の学生の状況を詳細に継続的に把握し、問題がある学生には適切な時期に適切なアドバイスができるようにしており、毎回の学科会議冒頭で報告や議論を行い、学修ポートフォリオでも情報を共有している[2-7][2-8][2-9]。</li> <li>・ 学生から配慮申請が提出された場合、学生サポートセンター、学科主任、指導教授、事務長で打合せを行い、配慮の範囲と学科における対応を協議している。科目担当者には学生サポートセンターから配慮の内容について通知され、学科所属教員には、学科主任より必要に応じて情報共有を行うことで、組織でサポートを行っている。</li> <li>・ ICTを用いた遠隔授業では、大学の指針に従い、オンデマンド授業とすることにより、自宅等での受講時に一時的に通信回線などに障害が発生した場合でも、他の時間に受講できるようにしている。</li> <li>・ ICTを用いる授業において、特に1年生向けの授業では講義の課題提出に使用するLMS（ラーニングマネジメントシステム）の使用方を説明・指導している[7-1]。</li> <li>・ ICTを用いた遠隔授業において、全学向けのオンデマンド授業では講義の課題提出に使用する（LMS）の使用方を説明・指導している。また、受講学生からのフィードバックを得るために、メールだけでなく受講者全員が閲覧・書き込みできるLMSのコメント機能を利用している[7-2]。</li> <li>・ PSHの時間を利用するなどして学生の相談に応じる体制を整備しており、学生相談室と連携して対応している。</li> <li>・ 入学前教育で、少人数のチームに分かれてメンバーで協力してロボットハンドを製作する課題に取り組むことで早期に知り合いができるようにしている[7-3]。</li> <li>・ 求人企業データベースを毎年更新し、学科の就職掲示板・就職資料室と共に運用しキャリア支援の充実を図っている[7-4]。</li> <li>・ 3、4年生向けに、企業による就職説明会・研究会等を実施している学科もある。学科の共通室が、学生への窓口やデータの集計、教員間連携のハブ機能などの重要な役割を果たしている[7-5]。</li> <li>・ 学科の専門分野に近い取り組みを行っている学生の自主活動グループに対して、技術指導や引率などの支援を実施している[7-6]。</li> <li>・ スタートアップセミナーにて、日常生活でトラブルに巻き込まれないために注意すべき事柄を取り上げたり、大学で整備されているハラスメント窓口を案内するなどしている学科もある[7-7]。</li> </ul>	

<b>評価項目</b>	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	<b>自己評価</b>	A
<b>評価の視点</b>	<p>(1) 学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。</p> <p>(2) 点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。</p>			
<b>現状説明</b>				
毎回の学科会議の冒頭学生の状況について報告を行い、対応が必要な事項に関しては議論を行い、適切な対応が行えるようにしている[2-8][2-9]。				

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0701	学科の専門科目を中心にサポートする学習支援室を、週に1回程度開催している[4a-7]。
項目 No. 0701	少数担当持ち上がり担任制を採用している[2-7]。
項目 No. 0701	学生の自主活動グループに対して、技術指導や引率などの支援をしている[7-6]。

## 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 702	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行う仕組みを各学科内に確立する。
今後の改善・向上方策	
各学科の教室会議の議題として1回以上/年の頻度で取り上げて検証、議論する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

## Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0701 修学支援・学生支援・キャリア支援において組織的な取り組みが実施されており、学生が安心して学ぶことができる環境が整備されている。 修学支援において、学科の専門科目を中心にサポートする学習支援室を、週に1回程度開催しており、サポート体制が充実している。[4a-7] 学部へのヒアリングでの事前質問の回答により、他学科でも補習やサポートクラスを実施している状況が確認できた。 少数担当による持ち上がり担任制により、担任が個々の学生の状況を継続的かつ的確に把握することが可能であり、課題を抱える学生に対しても、適切な時期に適切な助言を行うことができるよう学生の実態に即した指導がされている。[2-7] ICTを活用したオンデマンド授業では、受講環境の差に配慮した柔軟な運営がなされており、LMSの使用指導やフィードバック収集の仕組みが整っている。[7-1] [7-2] キャリア支援では、求人情報の継続的更新や掲示板運用、就職説明会の開催など、情報提供と支援体制が充実している。[7-5]	
長所・特色	
0701 学科の専門科目を中心にサポートする学習支援室を、週に1回程度開催している[4a-7] 0701 少数担当持ち上がり担任制により、学生の状況を詳細に継続的に把握することが可能であり、学生の実態に即した指導がされている。[2-7]	
留意点 *各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

- ：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする
- △：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 8 教育研究等環境

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0803	研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。 また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学として定められている研究や倫理に関する指針が研究ハンドブックにまとめられており、これに則って、研究活動を実施している[8-1]。</li> <li>・学生向けの研究ハンドブックを利用した周知を進めている[8-2]。</li> <li>・公正な研究活動を推進するため、文部科学省のガイドラインに基づき、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を行うことを関連規程に定めており、大学院生も含め、本学で研究に従事する全員が、eラーニングのeAPRINの受講を義務付けられている[8-3]。</li> </ul>				

評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
・毎年、各学科において施設・設備の計画的な更新に向けて検討を行い、学部等重点事業計画案や中期予算調査票				

を提出している[8-4][8-5]。

- ・数理物理サイエンス学科においては、学科創設1年目の入学者数が、定員の1.5倍であったため、教育研究施設や実験機器が十分であるか、年次進行に沿って、学科会議などで慎重に検討を進めている[2-8][2-9]。学長ヒアリングにおいても、上記が不足している旨上申を行い、実験消耗品の追加手配に係る予算が示達された[8-6]。
- ・コロナ禍以降に発達した遠隔やオンデマンドの有効性・重要性を認識し、一部の対面講義にて併用している。
- ・非常勤講師懇談会や学生からの聞き取りにより、教育研究等環境の適切性や安全性について意見を聴取し、学科会議等にて情報共有を行った上で改善に努めている[2-4]。
- ・一部の学科の卒業研究および大学院生の研究スペースが不足しており、学部管理エリア内における再検討を行うとともに、必要に応じて大学本部へ新たなスペースの上申を行う。

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0804	新しい実験の開始に合わせ、学科会議等における綿密な計画と点検を行っている (AS) [2-8][2-9]。

## 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	卒業研究・大学院生の研究スペースの調査
今後の改善・向上方策	
学部管理エリア内において、各研究室の占有面積などを調査し、必要に応じて再分配の再検討や、大学本部へ新たなスペースの上申を検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

## Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする  
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 9 社会連携・社会貢献

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己評価	S
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明	理工学部では、地域社会との強い連携を維持し、地域住民に学びの機会を提供することで、地域社会の発展に貢献している。 ・地域社会での科学教育の普及と啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。その代表的な活動として、JST数学キャラバンがある。このプログラムに参加し、地域の中学生・高校生に対して数学の魅力を伝えている。数学の基本原則や応用を実践的に学べる機会を提供し、次世代の科学的人材の育成に貢献している[9-1]。 ・学部教員が台長・副台長を務める天文台や、顧問を務める科学物理実験会では、各種イベントへの参加や一般向けの観望会の実施などにより、地域の科学啓蒙活動に深く関わっている。これにより、地域社会における中部大学の認知度や好感度の向上が図られており、科学技術に対する関心を高める一助となっている[9-2][9-3]。 ・多くの学部教員が各種学会に参加し、委員会への所属やセッションの企画を通じて、学問の最前線で活動している。特に、日本航空宇宙学会中部支部の委員や幹事校として、航空宇宙分野の技術普及と啓蒙を行い、地域社会との密接な連携を図っている[9-4]。 ・多くの教員が企業や研究機関との共同研究を推進している。例えば、DENSOや基礎生物学研究所などの研究機関			

と連携し、実践的な研究開発を進めている。このような産学連携を通じて、学生は実社会での応用力を身につけ、教員もまた企業の技術的ニーズを反映した研究を展開している。

- ・地域社会における人材育成にも力を入れている。特に、愛知県や名古屋市を中心として、宇宙航空分野の人材育成に関する業務委託を宇宙航空学科として受託し、専門的な教育プログラムを提供している[6-10]。これにより、地域の若者が先端技術に触れる機会を得るだけでなく、将来的な宇宙航空分野での活躍を目指すことが可能となっている。
- ・COC+事業に積極的に参加し、地域に貢献する研究活動を推進している。COC+事業は、地域課題の解決に向けた実践的な研究を支援するものであり、学生には地域創成メディエーターの資格取得を奨励し、地域の課題解決に向けた専門的な支援を提供できる人材を育成している[9-5]。
- ・地域社会とのつながりを強化するため、出前講義を積極的に実施している。高校からの依頼により、学部教員が各学校で模擬講義を行うことで、中部大学の教育内容を高校生に直接届けている[9-6]。これにより、地域の高校の生徒たちが大学教育に触れる機会が増え、進路選択の参考にもなっている。
- ・小学生を対象とした「ジュニアセミナー」も定期的に開催しており、理工学部教員による講座は毎回人気を集めている[9-7]。科学や工学の楽しさを実験を通じて伝え、子どもたちの好奇心を育み、将来的な理系人材の育成に寄与している。
- ・学科の専門科目をエクステンションカレッジとして社会人に公開している[9-8]。これにより、キャリアアップを目指す社会人や、学び直しを希望する地域住民が、大学レベルの専門知識を手軽に学べる機会を提供している。
- ・全国の高校生を対象にしたロボットコンテスト「中部大学学長杯争奪CU-Robocon」を毎年開催している[9-9]。このコンテストは、全国大会「WRO Japan (World Robot Olympiad Japan)」の公式予選会として位置づけられており、東海三県から集まった高校生たちがロボット技術を競い合っている。参加者は、プログラミングやロボット制御技術を実践的に学び、設計から製作、プログラミング、問題解決に至るまで、ロボット開発のプロセスを体験している。このコンテストは、高校生にとって技術者としての基礎を築く貴重な機会となっており、参加者は協調性や創造力を育むとともに、技術分野への関心を深めている。
- ・AI ロボティクス学科では、春日丘中学校のロボット部に対しても、積極的に技術支援を行っている。具体的には、大学の学部生および院生を派遣し、ロボット製作やプログラミングの技術指導を提供している[9-10]。この支援活動を通じて、中学生はロボット技術に触れることができ、実践的な技術スキルを身につけている。また、大学生との交流を通じて、将来的な進路選択への意識も高まっており、次世代の技術者育成に貢献している。
- ・地域交流の一環として、毎年中部大学大学祭において「おもしろ科学教室」を開催している。この教室は理工系教育圏の教員および科学物理実験会(SPE)の学生が共同で実施しており、地域の住民や子どもたちが科学の魅力を体験できる場となっている[9-3]。参加者は、大学の授業で行われている実験の一部を実際に体験することができ、科学の楽しさや不思議さを実感している。たとえば、物理の基本原則を視覚的に示す実験や、簡単な科学工作の体験が提供されており、子どもたちは学びながら科学への興味を深めている。このような取り組みは、地域社会における中部大学の存在感を高めるとともに、地域の子どもたちが科学技術に親しみを抱きつなげる機会を提供している。

評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が向上している取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明	これらの社会貢献活動は、天文台運営委員会、各学科会議等、CU-Robocon 運営委員会など、活動の所管部署において定期的に点検・検証されており、その結果は次年度以降の活動内容に反映されている。これにより、地域住民や学生にとって価値のある活動を維持し、継続的な改善を図っている。			

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0901	企業や研究所との共同研究の推進
項目 No. 0901	JST 数学キャラバンへの協力[9-1]
項目 No. 0901	科学物理実験会へ協力[9-3]
項目 No. 0901	CU-Robocon を WRO Japan 公式予選会として毎年開くことで地域貢献をしている[9-9]。
項目 No. 0901	現在の航空機製造の現場を担う社会人に向けた「航空機産業製造人材育成講座」を開催し、地域に貢献している[6-10]。
項目 No. 0901	春日丘中学校のロボット部に対して、大学院生や学部生を派遣し、ロボット製作やプログラミングの技術指導を提供している[9-10]。

### 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	教員個々の社会連携・社会貢献活動に関する情報の相互共有
今後の改善・向上方策	
学部所属教員が個別に行っている社会連携・社会貢献活動については、全体把握ができていない状況である。学科会議などで情報共有できる機会を設け、適切に学部で情報をまとめられる仕組みを作る必要がある。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0901	エクステンションカレッジ受講者数向上
今後の改善・向上方策	
エクステンションカレッジで開講しているものの、例年受講生が少ない傾向にある。理工系学生以外でも興味を持てるよう入門的な科目を開講するなど、各学科で検討を行う。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

### Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0901 理工学部では、地域社会との連携を重視し、科学教育の普及、人材育成、産学官連携、地域課題への対応など、多岐にわたる活動を継続的に展開している。JST 数学キャラバンや天文台での啓蒙活動、ロボットコンテストの開催、出前講義やジュニアセミナーの実施などを通じて、幅広い世代に学びの機会を提供しており、地域住民の科学技術への関心を高めるとともに、次世代の理系人材育成に貢献している。また、企業・自治体・研究機関との連携による実践的な教育・研究活動は、学生の応用力向上と教員の研究深化に寄与しており、地域社会との相互発展を促進する好事例といえる。一方で、エクステンションカレッジの受講者数が少ないという課題が学部内でも認識されているが、当初は実数の提示がなく、質問により追加資料が提出されたことで、現状の把握が可能となった [P9-1]。	
長所・特色	
0901 理工学部では、地域社会との連携を重視し、科学教育の普及、人材育成、産学官連携、地域課題への対応など、多岐にわたる活動を継続的に展開している。JST 数学キャラバンや天文台での啓蒙活動、ロボットコンテストの開催、出前講義やジュニアセミナーの実施などを通じて、幅広い世代に学びの機会を提供しており、地域住民の科学技術への関心を高めるとともに、次世代の理系人材育成に貢献している。また、企業・自治体・研究機関との連携による実践的な教育・研究活動は、学生の応用力向上と教員の研究深化に寄与しており、地域社会との相互発展を促進する好事例といえる。	

留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P9-1	エクステンションカレッジ受講者数	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする  
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2023~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 理工学部

基準 11 大学独自の評価項目 (管理運営)

## I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2023 年度新設学科のため記入事項なし	

## II. 自己点検・評価

## 1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議を月一回の頻度で開催し、学科の管理及び教育に関する議論を行っている。これにより、学科運営に関する重要な決定事項や教育方針について共有し、透明性を確保している。また、各会議の結果は議事録として取りまとめ、関係者に周知している[2-8][2-9]。</li> <li>・理工学部教授会は Zoom を利用したオンライン形式で実施している。これにより、デジタル化された資料を事前に全構成員へ配信し、ペーパーレス化を推進している。教授会および入学者選抜委員会は、年度始めに年間開催日程を教授会で周知し、教職員専用の Web ページでも公開している。会議終了後は議事録を作成し、構成員による確認および起案決裁を行っている[11-1]。</li> <li>・学部内委員会の統廃合を進めるため、各種委員会の構成や業務分担の見直しを検討し、より効率的かつ明確な運営体制の構築を目指している[11-2]。</li> <li>・教授会他、学部の主要な定例会議の開催日時や場所情報は、構成員の Garoon のスケジュールに事務局が一斉入力することで、リマインドをかけると共に、Garoon 利用の促進を行っている。</li> </ul>				

## 2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」

を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	デジタル化された資料を事前に全構成員へ配信し、ペーパーレス化を推進している[11-1]。
項目 No. 1121	教授会他、学部の主要な定例会議の開催日時や場所情報は、構成員の Garoon のスケジュールに事務局が一斉入力することで、リマインドをかけると共に、Garoon 利用の促進を行っている。

### 3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	教員の Garoon 活用の推進
今後の改善・向上方策	
教員の Garoon 利用率が低いいため、本来の機能が活かしきれていない。今後、教授会の事前資料を Garoon のファイル管理機能にアップロードするなど、教員が Garoon を使う機会を増やす方策を検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

### Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点 *各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする  
 △：現部署で保管

2025年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名	理工学部
-----	------

基準 (シートNo.)	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出区分
1. 理念・目的 (NF1)	1-1	基本理念・使命・教育目的 <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/philosophy/">https://www.chubu.ac.jp/about/philosophy/</a>	○
	1-2	3つのポリシー 理工学部 <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sci-eng/">https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/sci-eng/</a>	○
	1-3	学生便覧 (理工学部)	○
	1-4	クリアファイル_理工学部	○
	1-5	基本計画書 <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/application/">https://www.chubu.ac.jp/about/application/</a>	○
	1-6	設置の趣旨等を記載した書類 <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/application/">https://www.chubu.ac.jp/about/application/</a>	○
	1-7	数理・物理サイエンス学科スタートアップセミナー資料	○
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	中部大学の内部質保証 <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/known/quality-assurance/">https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/known/quality-assurance/</a>	○
	2-2	中部大学自己点検・評価実施要項	○
	2-3	教員活動重点目標・自己評価シート	○
	2-4	非常勤講師懇談会案内 (AU)	○
	2-5	工学部・理工学部・工学研究科懇親会案内メール	○
	2-6	EUTU懇親会案内メール	○
	2-7	AS指導教授担当表	○
	2-8	AS学科会議事録2023	△
	2-9	AS学科会議事録2024	△
4. 教育・学習(4a) (NF4a)	4a-1	DPおよびCPの見直しについてお願い	○
	4a-2	シラバス(例)	○
	4a-3	理工学部カリキュラムツリー	○
	4a-4	科目ナンバリング表 <a href="https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/kamokunum.pdf">https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/kamokunum.pdf</a>	○
	4a-5	第1回 教務委員会議事録(2024.10.4)	○
	4a-6	講義動画を対象とした生成AIの活用：藤吉AI先生	○
	4a-7	学習相談室開室の案内 (AU)	○
4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-1	生成系AI講義資料 (情報スキル入門HP)	○
	4b-2	【中部大学】認定結果通知 (リテラシー)	○
	4b-3	【中部大学 (理工学部)】認定結果通知 (応用基礎)	○
	4b-4	AI数理データサイエンスプログラム登録者数 (リテラシー)	○
	4b-5	AI数理データサイエンスプログラム登録者数 (応用基礎)	○
	4b-6	協働型ロボットの設置利用について	○
	4b-7	Google classroomを使った資料の共有例 (AU)	○
	4b-8	シラバス点検依頼文書2024	○
	4b-9	編入単位認定依頼_学科主任	○
	4b-10	オハイオ大学長期研修単位認定について (理工学部2024年度入学生)	○
	4b-11	2024年度卒研発表会プログラム	△
	4b-12	2024年度第12回理工学部教授会議事録(2025.2.28)	○
	4b-13	2023フレッシュマンテスト数学結果	●
	4b-14	中部大学アセスメント・プラン	○
	4b-15	学生による授業評価 (集計結果)	○
	4b-16	宇宙航空理工学科4年生、進路・就職活動状況報告書	○
	4b-17	2024年度_進路調査 - Googleフォーム	○
	4b-18	依頼文書_教員目標シート自己評価提出依頼	○
	4b-19	工学部・理工学部FD講演会	○
	5-1	第一高校と工学部・理工学部との意見交換会記録	○
	5-2	学科パンフレット (AR)	○

5. 学生の受け入れ (NF5)	5-3	学科パンフレット (AU)	○	
	5-4	航空学校合同説明会資料	○	
	5-5	入学前ガイダンス資料 (AS)	○	
	5-6	入学前教育課題 (AR)	○	
	5-7	入学前教育課題 (AU)	○	
	5-8	入学前教育 (AU) 対面開催案内	○	
	5-9	就職・キャリアデータ (AU) <a href="https://www.chubu.ac.jp/academics/sci-eng/astroaero/">https://www.chubu.ac.jp/academics/sci-eng/astroaero/</a>	○	
	5-10	アドミッションポリシー <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astroaero/">https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/astroaero/</a>	○	
	5-11	学科紹介 (AS)	○	
	5-12	入学試験要項	○	
	5-13	理工学部入学者選抜委員会議事録	△	
	5-14	2024年度入試状況	○	
	5-15	河合塾分析資料	○	
	6. 教員・教員組織 (NF6)	6-1	2024年度教育職員定員・現員表	○
		6-2	学科所属教員のクロスアポイントメントについての審議 (AR)	△
6-3		教育職員の職務と勤務態様	○	
6-4		数学科目開講数資料	○	
6-5		2024年度人事に関する手続きについて	○	
6-6		理工学部教員資格基準	△	
6-7		2024年度版 教育活動顕彰制度要項	○	
6-8		研究活動プレスリリースの一例 <a href="https://www.chubu.ac.jp/news/45293/">https://www.chubu.ac.jp/news/45293/</a>	○	
6-9		FDフォーラム・講演会 開催記録 <a href="https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/fd/record/">https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/fd/record/</a>	○	
6-10		航空宇宙設計演習講座 <a href="https://www.pref.aichi.jp/press-release/aerospace-manufacturer2024.html">https://www.pref.aichi.jp/press-release/aerospace-manufacturer2024.html</a>	○	
6-11		2023年度第1回理工学部教授会議事録	○	
6-12		数理・物理サイエンス学科、数理サイエンスコースにおける人事計画について	△	
7. 学生支援 (NF7)	7-1	「宇宙航空理工学概論(1年春開講)」講義概要	○	
	7-2	「宇宙航空理工学概論(SDGs)オンデマンド」講義概要	○	
	7-3	紙ロボットハンド製作マニュアル	○	
	7-4	EU就職・進学関連情報	○	
	7-5	学科企業研究会の案内(EU)	○	
	7-6	学生自主活動グループサポート例	○	
	7-7	スタートアップセミナーテキスト抜粋	○	
8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	研究ガイドブック	○	
	8-2	研究の心得	○	
	8-3	e-APRINの受講について	○	
	8-4	依頼状2025・2026年度以降における教育研究に係る学部等重点計画案の提出について	○	
	8-5	中期予算調査票の提出について (依頼)	○	
	8-6	2023年度中期予算計画調査票 (回答) AS	△	
9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	数学キャラバンポスター	○	
	9-2	2024天文台活動報告	○	
	9-3	科学物理実験会活動	○	
	9-4	日本航空宇宙学会中部支部幹事名簿	○	
	9-5	地域創成メディエーター資格パンフレット	○	
	9-6	模擬授業講師派遣依頼2023-2024	○	
	9-7	ジュニアセミナーチラシ2024	○	
	9-8	エクステンションカレッジ開講科目 (理工学部)	○	
	9-9	CU-Robocon2024ポスター	○	
	9-10	ロボット部への学生・院生派遣依頼	○	
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	理工学部教授会資料共有のお知らせ	○	
	11-2	2024年度理工系教育圏各種委員会名簿	○	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料  
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする  
△：現部署で保管